

○第79回プリオン専門調査会

日時：平成25年4月3日（水）9：30～12：10

場所：食品安全委員会 大会議室

議事概要：

- ・ 諮問事項（3）の30か月齢よりさらに月齢の規制閾値を引き上げた場合のリスク評価の評価書（案）が示され、これまでの資料からの変更点等について事務局から、食品健康影響評価のまとめ部分等について山本専門委員から説明が行われた後、審議が行われた。
- ・ 審議の結果、日本のBSE検査月齢の引き上げについては、
 - ① BSE発生の実績を踏まえれば、出生年月で見た最終発生から11年以上発生が確認されなければ、最終発生後の出生コホート（出生年月が同じ牛群）について、BSEが発生する可能性はほとんどないものと考えられる。
 - ② 感染実験等を踏まえると、国内措置として実施する検査対象月齢を48か月齢超に引き上げたとしても、人への健康影響は無視できると評価された。
- ・ 評価書（案）について、一部記載の修正につき、座長一任とされ、修正後、食品安全委員会へ報告することとなった。
- ・ 米国・カナダ・フランス・オランダ産牛肉の輸入月齢制限を30か月齢から更に引き上げることについては、引き続き、プリオン専門調査会で調査審議することとされた。
- ・ 諮問事項「牛の部位を原料とする肉骨粉等の肥料利用」について、農林水産省から説明が行われた後、審議が行われた。
- ・ 審議の結果、諮問事項①の肉骨粉を肥料として利用することについては、農林水産省が導入しようとする飼料への流用・誤用等を防止する管理措置が採られることを前提とする限りにおいて、当該肥料が人に及ぼす影響は、現行の肥料と変わるものではないとされ、座長が食品安全委員会に報告することとされた。
- ・ 諮問事項②の肉かす等を肥料として利用することについては、次回以降、審議することとされた。
- ・ 次回の開催については、日程調整の上、決定することとされた。

以上